

2017 年度 入学試験問題

国 語

(第 1 回)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学附属中学校

【注意】国語の問題では、字数制限のあるものは、特別な指示がない限り句読点等も一字に数えます。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「自然や環境は保護すべきか？」と尋ねたら、ほとんどの人はそくぎに、^①「そんなの決まってるじゃないか！」と答えるでしょう。しかし、「なぜ自然や環境を保護すべきなのか？」と問い直したら、どうでしょう。もしかしたら、質問の意味が分からず、ちよつと声を荒立てながら、「いまさら何が言いたいのか？」と反問するかもしれません。

「自然破壊」が進行し、「環境」が危機に瀕しているのは、言うまでもなく明らかだと思えます。とりわけ、国連や政府によって、「地球温暖化」の恐怖がセンデンされているので、世の中「エコ」の大合唱となっています。「地球にやさしい」生活をするのは、人類の責務だと言わなければなりません。

たとえば、A、いったい何のために「自然」や「環境」を「保護」すべきなのでしょう。たとえば、マレイ・ブクチンが『エコロジーと社会』のなかで紹介した、「自称エコロジスト」との会話に注目してみましょう。

ブクチン「君は現在のエコロジー的危機の原因が何だと思っているんだね？」

エコロジスト「人間だよ！ 人間たちがエコロジー的危機に責任があるんだ！ 「…」あらゆる人間さ！ 彼らが地球上で増え過ぎているし、彼らが地球を汚染しているし、彼らが資源を貪っているし、彼らが貪欲なんだ。」

(ブクチン『エコロジーと社会』)

「人間が自然を破壊した」——^②こうした考えは、「自称エコロジスト」だけでなく、しばしば学校でも表明されています。人間こそが、自然破壊の元凶というわけです。学校でディスカッションをしていると、学生のなかには、この見解を述べたあとで、つぎのような結論を主張することもあります。「したがって、エコロジー的危機をのりこえるためには、人類は(戦争や疫病などによつて)数を減らすべきである。」 B、もつとカゲキに、「自然や環境のためには、人類は滅亡した方がいい。」

ここまで単純な議論はしなくても、これと似かよった主張は、よく目にするのではないのでしょうか。環境保護運動が盛り上がりを見せた一九七〇年代の初め、ノルウェーのエコロジスト、アルネ・ネスは「ディープ・エコロジー」を唱えながら、つぎのように語っています。

ディープ・エコロジーには、人口を安定させるばかりではなく、「…」人口を持続可能な最低限度にまで減少させるという目標があります。百年前にあった文化の多様性を有するには、せいぜい一〇億ぐらいの人口がいいでしょう。

現在の世界人口がおよそ七〇億弱ですから、「ディープ・エコロジー」の目標を達成するには、六〇億人ほどを間引かなくてはなりません。しかし、そんなことが、どうやって可能なのでしょうか。なにか、途方もない大惨事を期待するしかありません。

③ こうした考えの根本にあるのは「人間による自然支配」という構図です。——人間が自然を支配し、欲望のままに自然に対して暴力を加えてきた。C、自然は破壊されつくし、いまや再生不可能な状態にまで陥っている。——この構図は、環境保護思想の母と呼ばれたレイチェル・カーソンの『沈黙の春』のなかでも、繰り返し返り表明されています。

自然を征服するのだ、としゃにむに進んできた私たち人間、進んできたあとをふりかえってみれば、見るも無残な破壊のあとばかり。自分たちが住んでいるこの大地をこわしているだけではない。私たちの仲間——いっしょに暮しているほかの生命にも、破壊の鋒先を向けてきた。「…」そしていままた、新しいやり口を考え出しては、大破壊、大虐殺の新しい章を歴史に書き加えていく。(カーソン『沈黙の春』)

この観点に立つて、レイチェル・カーソンはDDTなどの化学薬品の使用を告発し、人間による自然破壊の残酷さを描いています。「沈黙の春」というタイトルは、人間による自然破壊によって、自然が死滅し、「春になっても、鳥のさえずりが聞こえない」危機的状況をアンジしているのです。

環境保護運動の高まりとともに、こうした観点は「人間中心主義」と呼ばれるようになりました。これは、自然を人間のために存在するものと見なし、人間の利益追求のために自然を利用する態度です。しかし、このような「人間中心主義」は、さいきんになってとつぜん出現したわけではありません。

科学史家のリン・ホワイトによれば、人間中心主義はキリスト教とともに始まっています。「キリスト教の、とくにその西方的な形式は、世界がこれまで知っているなかでもっとも人間中心的な宗教である。『機械と神』のなかで、こう、リン・ホワイトは語っています。あるいは、ホルクハイマーとアドルノが『啓蒙の弁証法』において述べるように、「人間の自然支配」は、人間の文明化の時点で開始されている、とも言えるでしょう。【ア】

とすれば、環境破壊は、人間の文明化、すなわち歴史とともに始まったのではないのでしょうか。そうだとしたら、人間が存在することじたいが、環境破壊になってしまっているのではないのでしょうか。そう考えると、環境を保護するには、人間が絶滅するほかにないように見えます。はたして、そうなのでしょうか。【イ】

ここで立ち止まって、そもそも何のために環境保護するのか、考えてみましょう。たとえば、

政治やマスメディアで「地球温暖化」が大問題になっています。ですが、いったいこれによって、どんな困ったことが起こるのでしょうか。【ウ】

温暖化の影響^{えんげい}としては、「海面上昇^{じょうじやうしやう}」や「異常気象^{いじやうきさう}」、「干ばつ」や「食糧不足^{じよくりゆうふそく}」などが懸念^{けんねん}されています。いまのところ、このどれもハッキリしません、いずれにしろ「人間の生存」に対する不安であることは間違^{まちが}いではないでしょう。【エ】

もしかしたら、人間ではなく、南極のペンギンや北極のシロクマのことを心配する人も、いるかもしれません。けれども、ペンギンやシロクマは地球温暖化論の広告のために使われただけで、じつさいにはその根拠^{こんきよ}は怪しいようです。ですから、地球温暖化を問題視するのは、それが「人間の生存」に危機的状況を引き起こす、と考えられているからにほかなりません。海面が上昇して困るのは、人間の生活環境が失われるからに違いないでしょう。【オ】

さらに、この点は、資源の枯渇^{こかつ}についても明らかだと思われれます。D、石油については、昔から「あと三〇年」と言われ続けてきました。ところが、三〇年たっても、同じように「あと三〇年」とささやかれているのは不思議です。たしかに、石油がやがて枯渇するだろうことは、問題ではありません。しかし、^④ここで確認^{かくにん}したいのはそのことではありません。

むしろ、確認しておきたいのは、石油の枯渇が問題となるのは、「人間」にとつてである、という点です。石油を使うのは人間だけであり、枯渇して困るのも人間だけです。他の動植物にとつては、石油が枯渇したところで、何も影響はないでしょう。

こう考えると、「地球にやさしく」というキャッチフレーズが、なんともギマンじみた言葉であることが分かるでしょう。あえていえば、「温暖化」したところで、「地球」は、^dイタ^dくもかゆくもないのです。また、石油が枯渇しても、「地球」は何も困らないでしょう。「ガイア」はそれほどヤワではないのです。とすれば、どう表現したらいいのでしょうか。

誤解^{ごせ}を恐れず言ってしまう、環境を保護するのは、じつさいには「人間の生存」を守るためにほかなりません。人間の利益追求のためにこそ、環境は保護されるべきなのです。私たちが現実に配慮^{はいりよ}しているのは、「地球」ではなく「人間」です。そうだとするなら、「人間中心主義」は「環境破壊」の原因であるだけでなく、さらには「環境保護」の目的となるのではないのでしょうか。したがって、環境を保護するために、「人間中心主義」を批判するのは、的外れな議論だと言わなくてはなりません。

(中略)

では、「自然」にどうかかわればいいのか。ブライアン・ノートンという環境保護論者は、『持続性』という本のなかで「適応的管理」という概念^{がいねん}を提出しています。彼は、「環境プログラムティズム」の立場から「人間中心主義」を唱え、自然に対する「管理」を力説しています。しかし、「管理」といつても、あくまでも「適応的管理」であって、従来批判されたような「人間中心主義」ではありません。では、どんな「人間中心主義」が擁護^{ようご}可能なのでしょうか。

「人間中心主義」とは、「人間の利益実現を中心に置く立場」を意味します。しかし、このとき

「人間の利益」をどう考えるかが問題です。たとえば、ある種の生物が食糧として「経済的な利益」になるからといって、乱獲らんかくしてしまえば絶滅してしまい、結局は「経済的利益」に反します。そこで、「経済的利益」のためにも、生態学的観点が必要になります。しかも、「人間の利益」を「経済的利益」に限定する必要もないでしょう。「人間」が多面的に理解できるように、「人間の利益」も多様な側面から理解できるからです。人間の生存にとって、きれいな水や土壌どじょうや空気などは、人間の利益と言えます。

また、「人間の利益」という場合、しばしば誤解されるように、個人の欲求を短期的な観点から求めるだけではありません。むしろ、地域や社会の利益を考えて、個人の欲求を抑制よくせいすることもあるでしょう。あるいは、将来世代のために、現在の利益が制限されることもあります。その点では、「人間中心主義」だからといって、現在の個々人の欲求をそのまま認めるわけではないのです。ぎやくに、長期的な視野に立って、広い観点から利益を考慮こうりょする必要があるわけです。

さらに、「人間中心主義」は、「精神的価値」についても否定しません。かつては、「人間中心主義」といえば、物質的欲求だけをもち、精神的価値を排除はらいすると、見なされてきました。しかし、ノートンも言うように、「人間中心主義者」たちは、しばしば自然を精神的に評価しています。

いままで、「人間中心主義」を批判するとき、「人間」が「自然」を「搾取さくしゆ」するといったイメージで、考えられてきました。しかし、現在では、このようなイメージで「人間中心主義」を無邪むじや気に主張する人はほとんどいません。人間の利益を実現するには、自然の生態系を無視できませんし、短期的な視野から自然を開発しても、長期的にはかえって不利益になることも多いのです。むしろ、自然に適応する形で、長期的な観点から自然を管理すべきことが、目指されています。

このように考えると、自然を理想化して人間中心主義を反省しても、問題の隠いんぺいにしかならないでしょう。むしろ、いま必要なのは具体的な問題のなかで、広い視野に立って長期的な観点から自然を管理することではないでしょうか。

（岡本裕一郎『12歳からの現代思想』より）

問1 —— 線 a～d のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 空らん A D にあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次

から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | A | しかし | B | あるいは | C | たとえば | D | そのため |
| 2 | A | あるいは | B | たとえば | C | しかし | D | そのため |
| 3 | A | あるいは | B | そのため | C | たとえば | D | しかし |
| 4 | A | しかし | B | あるいは | C | そのため | D | たとえば |

問3 —— 線①「『そんなの決まっているじゃないか！』と答えるでしょう」とありますが、これは人々が環境保護というものに対してどのように思っているからですか。解答らん「『思っているから。』」に続くように文中から二十五字以内でぬき出し、はじめとおわりの五字で答えなさい。

問4 —— 線②「こうした考え」・線③「こうした考え」のそれぞれを説明したものと最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ②は、人間がすべて滅びることが環境を保護するための最善策であるという考えで、③は、大災害が起きて人間が滅亡するなんてありえないという考え。
- 2 ②は、地球のために人間は戦争などで数を減らすべきであるという考えで、③は、人間が自然を支配し、破壊しているわけではないという考え。
- 3 ②は、人間が環境を破壊した張本人であるという考えで、③は、人間を地球上から減らしていくことが環境を保護するための最善の策であるという考え。
- 4 ②は、人間こそが環境を破壊した犯人であるという考えで、③は、その人間が滅亡するために大災害が起こるのを期待しようという考え。

問5 次の文章はもともと本文の中にあつたものです。どの段落の後に入れるのがふさわしいですか。【ア】～【オ】の中から最もふさわしい場所を一つ選び、記号で答えなさい。

また、環境汚染についても同じ事です。水や土壌や大気などが汚染すれば、そこで生活する人々の生存を脅かします。「水俣病」や「四日市ぜんそく」などの公害をもちださなくても、環境の汚染が人間にどれほど甚大な被害をもたらすかは、計り知れませんが、美しい自然を守ろうとするのは、まさに「人間」のためにはかならないのです。

問6 ——線④「ここで確認したいのはそのことではありません」とありますが、筆者がここで「確認したい」と考えていることとして、最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 どうして「あと三〇年」と言われ続けている石油がいつまでたっても枯渇しないのかということ。
- 2 石油の枯渇が問題であると言われているが、いったい誰にとつての問題であるのかということ。
- 3 人間以外の動植物には石油が枯渇することでどのような影響がどれくらいでるのかということ。
- 4 石油の枯渇が現在起きている地球の温暖化現象とどのような関係性を持っているのかということ。

問7 本文の内容を説明したものととして、最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 国連や政府による自然破壊が進んだことに対し、世の中のエコロジストたちは自らの生活の危機を感じ、人間こそが自然破壊の原因であり、人類の数そのものを減らすべきだと考えるようになった。
- 2 環境保護思想の母、レイチェル・カーソンは『沈黙の春』の中で、化学薬品の使用を問題視し、人間による自然破壊が進んだ今、汚染された環境を復元することは不可能であると強く唱えた。
- 3 地球温暖化が進むと地球上の全生物が被害を受けているかのように言われ、保護運動が広がっていくが、それは人間の生活に直接的な被害が及ぶことを恐れての活動だと考えることができる。
- 4 キリスト教とともに始まった「人間中心主義」は人間の文明化の時点ですでに芽生えていたともいえるが、それにより環境が破壊されるようになったのは二十一世紀になってからである。

問 8

——線「『人間中心主義』とありますが、従来の「人間中心主義」と、筆者の考える「人間中心主義」の違いを説明したものととして、最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 従来言われていた「人間中心主義」は、人間が自然を支配し、個人の欲求を短期的な観点から求め、「経済的な利益」を追求していくという考え方だが、筆者の言う「人間中心主義」は、自然を管理するという考えを排除し、生態学的観点から地球環境をとらえ直すことで、個人の欲求を満たさずとも人間全体の利益の実現は可能であるとする考え方である。
- 2 従来言われていた「人間中心主義」は、人間が自然を支配し、個人の欲求を短期的な観点から求め、「経済的な利益」を追求していくという考え方だが、筆者の言う「人間中心主義」は、地域や社会のためには個人の欲求を抑制したり、長期的な視野から現在の利益を制限したりしながら、子や孫のための利益の実現を^{はか}らうという考え方である。
- 3 従来言われていた「人間中心主義」は、人間が自然を支配し、個人の欲求を短期的な観点から求め、「経済的な利益」を追求していくという考え方だが、筆者の言う「人間中心主義」は、長期的な視野に立つて現在の個人の利益を制限していくことで、自然を精神的に評価することができるようになり、そのことが物質的利益につながるという考え方である。
- 4 従来言われていた「人間中心主義」は、人間が自然を支配し、個人の欲求を短期的な観点から求め、「経済的な利益」を追求していくという考え方だが、筆者の言う「人間中心主義」は、物質的欲求を排除し、精神的なものに価値を置くことで、視野を広げるようになり、長期的な人間の利益というものを追求することができるという考え方である。

(問題は次のページに続く)

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

台所にかかっている、タクシー会社のカレンダーを一枚めくると、青い空と白い雲の下に鮮やかな紫色のラベンダー畑が広がっていた。左下に小さく「北海道 富良野」と書いてある。八月の写真だ。ぼくはカレンダーをめくる作業が好きだ。いかにもその季節にぴったりの写真や絵を見て、いつか行ってみたいなあと思うのも、新品の月日を見て A するのも楽しい。

今日から八月のはじまりだ。ゆつくり過ぎる七月の夏休みとちがって、八月の夏休みはあつという間に通り過ぎてしまうのを、ぼくはこれまでの少ない経験から学習している。早く宿題をすませてしまつて、すっきりした気分でごしたい。

「あつ」

今日、八月一日の日に丸印がしてある。

「誕生日だな」

うしろから声がして、おじいさんの整髪料の香りがふうつと流れてきた。おじいさんの髪は、裾の部分は短く刈つてあるけど、上のほうは少しだけ長さがある。おじいさんがその部分に整髪料をつけて、櫛で丁寧にかかしているのをぼくは知っている。洗面台に置いてある黒い瓶のやつだ。おじいさんはけつして髪が薄いわけではないから、ぼくにはじゃらしのような心配はないかもしれない。

「おめでどう」

ぼくはびびくりしていた。まさかおじいさんがぼくの誕生日を知っているなんて。カレンダーに丸印がつけてあるなんて。

おじいさんが、ぼくの頭に手を置いた。ぼくはあたふたと「はい」などと答えた。ばかみたいだ。

「十一か」

ぼくはうなずいた。

「たった四年でこんなに大きくなるんだな。それでもまだ十一年か。十一年前なんて、わしにとつては最近の話だつていうのに、子どもつていうのはすごいもんだな」

おじいさんはそんなことを、ぼくにとつていうより、むしろ自分に言うみたいだ。B と言うから、ぼくはまたぼんやりとうなずいた。四年という数字が、ぼくが一年生の夏にここを訪れてから今までの年月だとわかるまで、少し時間がかかった。そういえば、ここに引越してきた日も同じようなことを言つてたつて。

「今日は伸子が来るらしいぞ」

え？

おじいさんは、ぎゅつとひとつ笑つて、そのまま行つてしまつた。

母さんが来る。母さんがこの家に来るんだ。ぼくは純粹にうれしかった。おじいさんのうちに

引越してから、まだ間もなかったから、それほどの恋しさはなかったけど、母さんに会えるのはやっぱりうれしかった。

母さんと離れて暮らすことにたくさん心配はあったけど、思っていたよりも気持ちは落ち着いていたし、不安に思うこともほとんどなかった。母さんがここにいてくれれば、と思うことはあったけど、^① ついこないだまでの母さんと二人きりの生活に戻りたいとは思わなかった。

ぼくは自分で意識しないうちに、おじいさんという、母さん以外の身内の存在をとて心強く感じていた。母さんがいなくなったらどうしよう、というぼくの最大の心配事は杞憂^aだった。ぼくにはおじいさんがいた。そして、今は離れているけど母さんもいるのだ。二人いれば大丈夫なんだ、という根拠のない自信はぼくを元気にさせてくれた。

「行ってくる」

と言って、おじいさんが仕事に行ったあと、ぼくはいつものように廊下の雑巾がけをはじめた。今日も暑くなりそうだなと思う。

誕生日。毎年思うことだけど、ぼくが八月一日生まれというのはまるで似合わないような気がする。夏の誕生日の子たちは、明るくて元気で活発というイメージだ。

ギィという耳慣れた音がした。ぼくは高い位置にあった腰を落とし、正座のような格好になって、木戸のほうを見た。黒い日傘をすぼめ、少しかがんでその人は入ってきた。

「光輝」

母さんだった。

このときの場面を、ぼくはとても鮮明に覚えている。映画かなにかのワンシーンを見ているように、ぼくは、ぼくを含めた広縁と庭と木戸と母さんを、少し離れた場所から、静かな気持ちで眺めていた。

「陽に焼けたわね」

ぼくを見て、母さんは笑った。ぼくの心の中はとても静かだった。まだほんのわずかの日数だけど、母さんと離れて暮らしたのははじめてだったし、生まれてこのかた、よその家に泊まったことすらなかった。それなのに、^② 久しぶりに会った母さんを見ても、ぼくの心はなぜか静かだった。

「元気にしてる？」

母さんは広縁に腰かけて、折りたたみ式の日傘を丁寧にたたみはじめた。なんだがちがう人みたいだった。母さんはぼくの知らない白いワンピースを着て、ぼくの知らない白いサンダルをはいていた。

「うん」

と返事をして、ぼくの心はひんやりとした。ぼくの考えていた再会（といっちはおおげさだけど）とちがっていた。ちがっていたのはぼくの気持ちで、ぼくはもっと喜んでうれしがるはずなのに、と残念に思った。

「母さんは元気だった？」

「うん、まあまあかな」

と、ここではじめてお互いの目を合わせたと思う。「麦茶をいれてくる」と言って、ぼくは手に持っていた雑巾を片付け、台所へ行った。涼しい家の中から、縁側に座っている母さんのうしろ姿を見ると、それこそ、ぜんぜん知らない人に見えた。

「はい」

お盆に載せたふたつのコップから、母さんはひとつを手に取って、そっと口をつけた。

「ああ、おいしいわ。ありがとう」

ぼくも飲んだ。すっかりこの麦茶の味に慣れてしまった。母さんと二人で住んでいたときの麦茶の味はもう思い出せなかった。

「この暮らしはどう？」

いつのまにか、手を膝に置いて正座をしていた自分に気付いて、ぼくはCと縁側に足を下ろした。

「うん、たのしいよ」

「おじいさんはよくしてくれる？」

「うん」

そう、よかった、と母さんは言った。

「母さんのほうは？ 仕事はどう？ みどりさんは？ 新しい家は？」

矢継ぎ早に聞いてしまって、これじゃあ、ぼくの気持ちとうらはらだ、と思った。けれど、母さんの新しい仕事の話は、頭のどこかでずっと気にかかっていた。母さんの引越先にもぼくは行っていないから、どんな生活をしているのか、時々考えることはあった。

「仕事のほうはまだ準備段階かなあ。いろいろな準備をして、自分でもいろんな勉強をしているの。お客様がつくのに時間はかかるわ。」

みどりさんは、とてもよくしてくれるのよ。彼女がいなかったら、私一人ではなにもできなかったわ。みどりさんと、新しい住まいに一緒に住むことになったの。下がお店だから、ちょうどいいのよ。広いから光輝もいくらだって泊まりに来られるわ。

今はまだ荷物が片付いてないんだけど、あと一週間もすればきちんと片付くし、光輝の部屋も用意してあるの。みどりさんも会いたがっていたから、いつでも来てね。電話もひいたから、いつでもすぐに電話しなさいね」

母さんの話し方は、ひどくゆつくりだった。言葉ひとつひとつを言い含めるようにゆつくりとしゃべった。もとから静かに話す人だったけど、前とはちがう。頭の中の大事な部品のひとつが消えてなくなつて、その代わりに形も材質も機能もまったく異なる部品が、聞いたこともない製造元から搬入されたみたいだった。

その部品に名前をつけるとしたら『現実』と『妄想』だろうな、とぼくは大人になってから

思いあたった。けれど、十一歳さいになりたてのぼくには、それがなんなのか、もちろんわからなかった。

「これ、ケーキ。すぐおいしいって評判のお店で買ってきたのよ。あとで食べましょう」

ぼくは母さんからケーキを受け取り、当然のようにそれを冷蔵庫にしまった。冷蔵庫の中はケーキの箱を入れる隙間すきまがなかったから、ぼくは、ラップがかかっている漬物つけものやハムのお皿をどけて、瓶詰びんづめのらつきようや紅しょうがを整理して、納豆なっとうのパックを横にやって、ケーキのためのスペースを作った。その作業をしながらなんとなく違和感いわかんが残った。その違和感に気付いたのは、おじいさんが帰ってきてからだった。

「ただいま」

おじいさんは昼過ぎに帰ってきた。母さんを見て、眉毛まゆげを一瞬いっしゆんだけぴくつとさせ、「ああ」と言った。

「おじやましてます」

母さんはゆっくりとした動作で頭を下げた。ん？　と思った。おじやましてます？

ああ、そうか。ようやく合点bがいった。母さんはこのうちの人ではないんだ、と。そして、ぼくはこのうちの子になったんだと。このうちの子だから、お客さんには麦茶を出すし、お客さんから頂いたケーキは冷蔵庫内にしまう。お客さんだから、「おじやましてます」と言うのだと。

ぼくはそれを当然のように受け入れている自分が不思議だった。たったこれだけの期間で、ぼくはもうこのうちの子になってしまったんだ、と④複雑な気持ちだった。

「ほら、これ」

おじいさんは大きな紙袋かみぶくろを持っていて、それをぼくに差し出した。中身を見ると、それは水槽すいそうだった。酸素のセットも入っている。

「佐々木さんのこの息子さんが昔使っていた水槽だけど、ほんの少しの間しか使わなかったみたいだから新品同様だと。これに子どもを入れたらいい」

子どもというのがグッピーの赤ちゃんだとわかるまで数秒かかって、この水槽が誕生日プレゼントとわかるまでさらに数十秒かかった。

「どうもありがとう」

ちょうどメスのグッピーのお腹が大きくなっている。明日かあさつてには赤ちゃんが生まれそうだ。どうやって親から隔離かくりするか、考えていた矢先だった。魚すくいあひの網を水槽に入れて、その中で赤ちゃんを飼おうかな、なんて思っていた。

「さっそく使います。おじいさん、ありがとう」

紙袋から水槽を取り出し、外で丁寧に洗った。水をためて酸素ポンプも試してみたけど、なんの問題もなかった。水槽は本当にまだ新品で、外側にはネオンテトラと水藻みずもの写真のシールが貼はつたままだった。水槽に井戸水いどみずを入れて、外に出しておいた。水道水じゃないから大丈夫だろうけど、念のために日干しすることにした。

水槽を洗っている間に、ちらりと母さんのほうを見た。おじいさんに促されて、ようやくといった感じで、中に入るのが見えた。縁側で二人でただ座っていても、ぼくはどうしたらいいのかわからなかった。一緒に住んでいるときだって、特別な話をするわけではなかったけど、今の状況で二人きりになるのはちがって、それは毎日の生活の中でのごくごく自然のことだった。けれど、今はもうちがうみたいだった。間がもたないような感じがした。たった十日しかたっていないのに。

母さんの雰囲気^{ふんいき}が前と変わったことが原因かもしれない。それともぼくのほうが変わってしまったのかもしれない。ぼくは大汗^{おあせ}をかきながら、水槽を^{ごしごし}と洗った。鼻の下の汗の粒^{つぶ}を舌でなめた。しょっぱい味がした。

（椰月美智子『しずかな日々』より）

問1 空らん A C にあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| 1 | A | うだうだ | B | ずらずら | C | やきもき |
| 2 | A | うだうだ | B | せかせか | C | そそくさ |
| 3 | A | わくわく | B | ずらずら | C | そそくさ |
| 4 | A | わくわく | B | せかせか | C | やきもき |

問2 線 a 「杞憂」と同じ意味になるように、次の語句の空らん^{くわらん}にひらがな四字を入れ、慣用的な表現を完成させなさい。

苦勞

問3 線 b 「合点がいった」とありますが、このことばと同じ意味をもつ熟語を次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|---------------------|---|----|
| 1 | 余得 | 2 | 損得 | 3 | 納得 ^{ちゅうとく} | 4 | 利得 |
| 5 | 得心 | 6 | 得失 | 7 | 得手 | 8 | 得業 |

問4 線①「ついこないだまでの母さんとの二人きりの生活に戻りたいとは思わなかった」とありますが、それはなぜですか。次の文の空らん【A】【B】にあてはまることばを、文中から【A】は十一字、【B】は二字でぬき出してそれぞれ答えなさい。

【A】を実感できる祖父との生活に比べて、母親しか頼りにできる人間がないという以前の生活に【B】を感じるから。

問5 ——線②「久しぶりに会った母さんを見ても、ぼくの心はなぜか静かだった」とありますが、**「ぼく」**がこのように感じているのはなぜですか。その理由を説明している一続きの二文を文中からぬき出し、はじめとおわりの五字を答えなさい。

問6 ——線③「『現実』と『妄想』」とありますが、これはどういうことをあらわしていますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 実際に母親の口から出たことばと、想像していた母親のことばとの間にギャップを感じたということ。

2 久しぶりに会った母親の姿と、頭の中に存在していた母親の姿との間にギャップを感じたということ。

3 母親との現実の再会と、自分が思い描いていた再会の場面との間にギャップを感じたということ。

4 祖父と暮らしている今の自分と、母親と暮らしていた頃の自分との間にギャップを感じたということ。

問7 ——線④「複雑な気持ち」とありますが、この時の「ぼく」の気持ちの説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 たった十日のうちに祖父の家の子になったことを喜んでいて一方で、簡単に母親から祖父へとよりどころを移してしまっている自分自身に寂しさを感じている。

2 たった十日のうちに祖父の家になれたことをうれしく思う一方で、母親と会っていなかった時間の分だけ気持ちが離れてしまった自分に憤りを感じている。

3 たった十日のうちに母親から自立して慣れない場所で生活できたことに自信をもった一方で、母親を必要としなくなっている自分に不安を感じている。

4 たった十日のうちに祖父の家が自分の家になってしまったことを受け入れている一方で、そのように感じてしまっている自分自身にとまどいを感じている。

問8 この作品には大人になった「ぼく」の視点で語られていると明確にわかる段落が二つあります。その段落のはじめの五字をそれぞれ文中からぬき出して答えなさい。

3 次の【A】～【F】の作品にはすべて「海」が登場します。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

【A】

空の石盤せきばんに
鷗かもめがABCを書く

海は灰色はいいろの牧場です

白波は綿羊むれの群むれであらう

船が散歩する

煙草たばこを吸すひながら

船が散歩する

口笛くちふえを吹ふきながら

(堀口大宇「海の風景」)

【B】 大海たいかいの磯いそもどころに寄する波なみわれてくだけでさけて散るかも 源実朝

【C】 東海とうかいの小島ことうの磯いその白砂しろすなに

われ泣なきぬれて

蟹かにとたはむむる 石川啄木

【D】 春はるの海うみひねもすのたりのたりかな 与謝蕪村

【E】 荒海あらかみや佐渡さつに横よこたふ天あまの川がは 松尾芭蕉

【F】 夕立ゆふだちが始まる海うみのはづれかな 小林一茶

問1 【A】の詩の表現について説明した次の文の中から正しいものを二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 最も代表的な表現技法である「直喩」が、一か所にだけ見られる。
- 2 「隠喩」が多用されることにより、読者に情景を想像させている。
- 3 「対句」が第二連だけに使われ、ことばのリズムを生んでいる。
- 4 詩の後半に、語順をかえて強調する「反復法」が使われている。
- 5 第三連と第四連に「擬人法」を使い、イメージを深めている。
- 6 規則的なことばの使い方を、いわゆる「定型詩」である。

問2 【A】の詩でえがかれている海の風景を説明したものととして、最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 カモメが複雑な飛び方をしたり白波が立っていたりなど、大自然のあらあらしさをえがいている。
- 2 石盤の空や牧場の海など灰色の風景をえがくことにより、作者のしずんだ心情をあらわしている。
- 3 汽笛を鳴らしながら進む蒸気船を登場させることによって、ほのぼのとした印象をあたえている。
- 4 海には存在しない風物が詩の中にちりばめられており、現実ばなれした情景をつくり出している。

問3 【B】【C】のような三十一音からなる形式の作品を何と言いますか。漢字二字で答えなさい。

問4 【C】～【F】から擬態語を一つ探し、ぬき出しなさい。

問5 【D】～【F】の作品には「季語」がよみこまれています。よまれていない季節が一つあります。その季節を漢字で答えなさい。

問6 「海」という漢字に、同じような意味の漢字を重ね、「岩石」のような二字の熟語をつくりなさい。

問7 次の①・②は「海」という字を含むことわざです。空らん□にあてはまることはを考
え、それぞれひらがな三字で答えなさい。

- ① 井の中の□大海を知らず
- ② 待てば海路の□あり